

令和6年度 第1回（通算第56回） 山梨県立博物館 運営委員会 議事録

日 時： 令和6年6月14日（金） 午後2時～午後4時

場 所： 山梨県立博物館 生涯学習室

出席者：

○委員

末木健委員長、中山誠二委員長代理、相沢季里委員、市川美希委員、大隅清陽委員、
笹本正治委員

○事務局

守屋館長、岡田副館長、前田総務課長、石神企画交流課長、近藤学芸課長、
関係職員9名

○観光文化スポーツ部文化振興・文化財課

保坂文化企画指導監、中野副主査

会議の次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶等
- (3) 審議
- (4) 報告
- (5) その他
- (6) 閉会

会議の概要

- (1) 開会

- (2) 挨拶等

○館長

○委員長挨拶

- (3) 審議【非公開】

1. 令和8年度の企画展、令和7年度シンボル展について

2. 令和7年度の新規研究計画について

※非公開理由：山梨県情報公開条例第8条第1号及び2号に規定する事項について
審議等を行うときに該当するため（私信第3条第1項）

(4) 報告【公開】

1. 令和6年度の利用者状況について
2. 開催済みの展覧会について
3. 資料・情報委員会の答申状況について
4. みんなでつくる博物館協議会の開催状況について
5. 韓国清州博物館との交流展示に関する了解覚書の締結について

○事務局から報告1～5について資料2～6に基づき説明。委員からの意見はなし

(5) その他【公開】

(委員)

- ・今後の委員会では、展示・研究だけでなく、博物館の総合的な課題について検討する場にもしていただきたい。2期整備に向けどのような活動が必要か、現状の常設展のリニューアルをどう進めるか、他にも館外の案内掲示、展示室内の撮影、ショップ運営（グッズ開発等）など、改善すべき課題は少なくないと思う。もう少し全般的な課題に向けた議論ができる時間を設けることもご検討いただきたい。

(事務局)

- ・ご指摘を重く受け止めて、今後の審議内容については館内で十分に検討したい。
- ・科研費研究についてもご指摘のとおり、今後は基盤Bクラスの規模を獲得できるよう計画を立てたい。ただし大学によっては基盤B以上の獲得が昇任人事に関わることもあり、獲得競争が激しくなることが見込まれる。
- ・また、ご意見のあった公文書館については、ご指摘のとおり山梨は非常に遅れている。ただし博物館でその機能を担うことは、収蔵スペース等の問題から困難であり、どのような展望が必要かは全庁的な検討が必要になる。
- ・職員の数も限られている中で課題は多く、すべてに十分に対応することは難しいというのが現状であるが、少しずつ改善させてまいりたいので、今後も委員各位から助言を頂戴したい。

(委員)

- ・来年は20周年ということもあり、館の運営について総括的に議論する場を設けても良いのではないかと思うので、ご検討いただきたい。

(委員)

- ・山梨県博は長野県立歴史館と比べて非常に恵まれている。専門の学芸員が在籍し、研究費も獲得できるという状況は恵まれた環境であることを十分に認識したうえで活動してもらいたい。一方で、博物館に何でもかんでも仕事を、という状況にもなりつつあると思う

ので、できないものはできない、ときっぱり断ることも必要になるのではないか。

- ・長野県立歴史館の協議会でも事務局からの説明を極力少なくして、委員の間で意見を交わす時間を増やそうと考えている。以前から申し上げていることだが、博物館は本委員会で出された意見をうまく活用し、県との交渉等を行っていただきたい。

(委員)

- ・長らく休業状態だったレストランスペースにカフェがオープンしたが、その経緯について簡単にご説明願いたい。

(事務局)

- ・現在のカフェは、知事の公約を受け、観光振興課が中心となって展開する事業の一環として今年 2 月にオープンしたものである。県産のフルーツを活用したスイーツを提供する場として、また若手パティシエ養成の場とすることを目的としている。現在では軽食も提供するようになっており、カフェ目当てで来館するお客様も散見され、来館者増にもつながっているものと考えられる。

(6) 閉会